

A 氏邸訪問記(2025.8.18)

1. はじめに

今回の訪問は、前回の A 氏邸訪問以来、2 年と 5 ケ月になります。今回の訪問の主な目的は、その後の経過の確認と A 氏のご希望により配信音源の光アイソレーションなどの効果の試聴です。A 氏の他にオーディオ仲間 2 氏も参加されました。

2. A 氏邸のシステムの概要と試聴条件

A 氏邸のシステムは、前回の訪問記以降ほとんど変わっていません。今回の試聴システムは、300B 真空管アンプ SV-300 で駆動するヤマハのスーパーツイーターJA0506 付加の JBL4410 です。

今回の試聴対象は持参した次のものです。

LAN iSilencer

OPT ISO BOX : DC ケーブルに Petit Susie Solid State 介在

追加 LAN ケーブル R-AL 1

LAN iPurifier Pro : 電源は iPower2 に変更

追加 LAN ケーブル Ultra Slim Link

試聴する条件は下記のとおりです。

ルーターと PC の LAN 接続の間に上記を介在させます。

音源は、配信サイトから A 氏のご希望と当方推奨の音源を選択しました。

順序としては、拙宅の経験から、効果の小さい方から大きい方へと変わるように下記を想定します。

LAN iSilencer→OPT ISO BOX→LAN iPurifier Pro

3. A 氏邸のシステムの試聴経過



システム全景

A氏が選択されたベルリンフィルディジタルコンサートホールのHIMARIの演奏するアンコール曲のコリリアーノの小品の配信音源をLAN接続に上記の順に比較していきました。

アイソレーションなし→LAN iSilencer→OPT ISO BOX→LAN iPurifier Pro
アイソレーションなしでは、JBLの個性が強く、ヴァイオリンの粗さが目立ちましたが、アイソレーションの器材を替えるごとに緻密さがまし、ヴィブラートや重音がはっきりと聴き取れるようになりました。JBLでここまでヴァイオリンがリアルに聴けるのかという声もあがったくらいです。

この後、LAN iPurifier Proで、おなじくHIMARIのヴィエニャフスキのヴァイオリン協奏曲第1番、STAGE+から山下洋輔と山本邦山のミュンヘンでのデュオコンサート、ゲオルグ・ショルティ・アカデミアの創立記念オペラガラコンサートのソプラノ、アルト、テノール、バリトンによるヴェルディの椿姫の乾杯の歌、マリア・ドエニャスのパガニーニの24のカプリースなどを聴いていきましたが、収録年代の新旧や収録環境の違いなどもはっきり確認でき、椿姫の乾杯の歌の収録環境のライブ感やパガニーニなどもヴァイオリンのボウイングの様子が再現されており、LAN iPurifier ProからOPT ISO BOXに戻した場合も、その違いがはっきり分かりました。

また、HIMARIの演奏の5.6MHzDSD録音をメモリーで持参していましたので、PCのHQPPlayerで再生したところ、LAN iPurifier Pro経由のストリーミング再生に近似した録音ができていることも確認できました。

4. まとめ

A氏のご希望に沿ったそれぞれのアイソレーション器材の特性やベルリンフィルデ

ィジタルコンサートホールや STAGE+の配信のクオリティが確認できました。

以上